

津波避難の3原則

津波警報が解除されるまで絶対に戻らない!

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波の特徴を知り、身を守るためのポイントをしっかり確かめておきましょう。

津波避難の3原則 ①～③ 参照:群馬大学大学院 片田敏孝 教授著「人が死なない防災(集英社新書)」

1 想定にとられるな

ハザードマップに掲載している津波の浸水域などの情報は、あくまでひとつの「想定」です。実際の地震や津波が想定通りになるとは限りません。

2 最善をつくせ

実際にどこまで浸水するかといったことは、事前にはわかりません。その時に考えられる最善を尽くして、あきらめず避難しましょう。

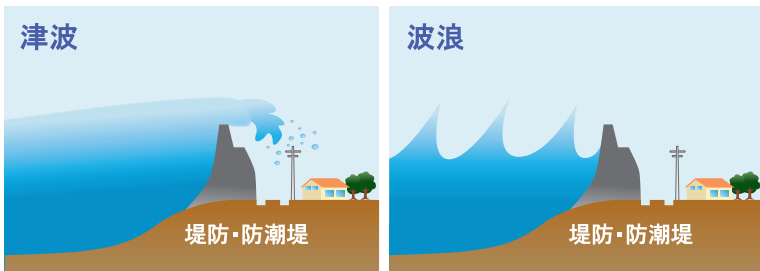
3 率先避難者たれ

家族が離れたところにいた場合、迎えに行こうとすると避難が遅れてしまいます。自分ひとりでも避難しましょう。率先して避難することで、周囲の人の避難を促すことにもつながります。

恐るべき津波の破壊力

普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。

引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



津波の速度は速い

津波の陸上をさかのぼるときの速さは、時速36km程度になります。これはオリンピックの短距離走者並みの速さです。

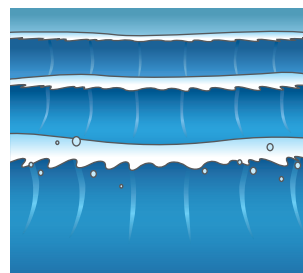
津波が見えてから、走って逃げ切ることは非常に困難です。



津波は繰り返し来襲する

津波は繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。

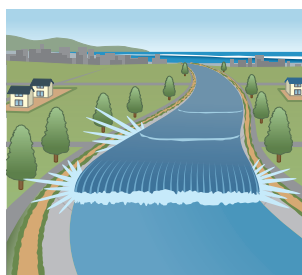
一度波が引いても、津波注意報が解除されるまでは気を抜かず、避難を続けましょう。



津波は河川を遡上する

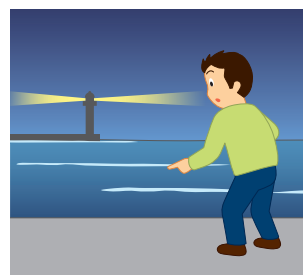
津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。

遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。



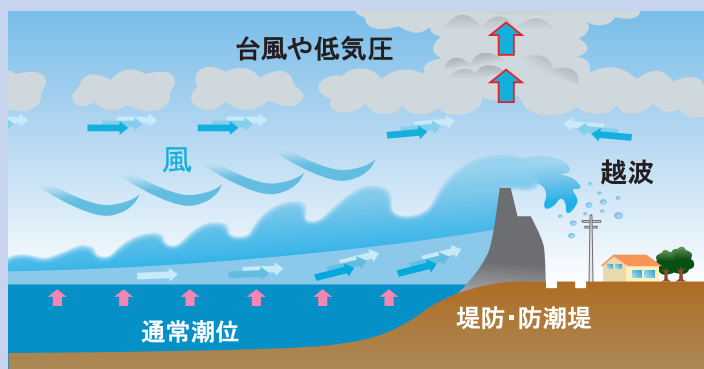
引き潮があるとは限らない

津波は引き潮から始まるとは限りません。よく、津波の前には引き潮があると言われていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。



高潮

台風などの低気圧に伴い、気圧低下による海水の吸い上げと、強風による海水の吹き寄せによって海面が異常に高くなる現象が高潮です。



高潮の発生原因

台風や低気圧

現象

長時間にわたり、異常に高い潮位が続き、浸水被害が起こります。

注意すべき点

- 高潮は、大潮時や満潮時に発生しやすくなります。
- 台風の接近時には、高潮の発生に警戒してください。
- 高潮発生時は、大雨や暴風により避難が困難になることがあります。